

# 《富士吉田市まち・ひと・しごと創生：人口ビジョン及び総合戦略の概要》

●人口ビジョン  
●総合戦略

平成 27(2015)年度～平成 31(2019)年度の5箇年計画

平成 72(2060)年度までの将来展望

## 富士吉田市人口ビジョン(現状分析及び将来展望)

平成 72(2060)年度を見据え、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の趣旨を尊重し、本市が目指すべき将来の方向と人口の将来展望する。

### 1 人口の現状分析

#### (1)人口動向分析

##### 【総人口】

- ・ピーク時(平成 2(1990)年)には、約 5 万 5 千人
- ・平成 2(1990)年からは減少に転じ、現在は約 5 万人

##### 【社会動態】

- ・基本的には転出数が転入数を上回っており、「転出超過」の傾向が現在まで続いている。
- ・男女において 20～24 歳の「転出超過」が高く、特に「東京圏」への転出が多くなっている。

##### 【自然動態】

- ・昭和 43(1968)年をピークに出生数は減少し、平成 17(2005)年から自然減少となっている。
- ・母親世代となる若年女性人口(20～34 歳)の減少が多く、出生数の減少に影響している。

##### 【人口動態】

- ・昭和 45(1970)年の 827 人増加から減少を続け、平成元(1989)年にマイナスに転じてからは急激に人口減少が進んでいる。

#### (2)将来人口の推計と分析

##### 【国立社会保障 人口問題研究所の推計】

- ・平成 52(2040)年の総人口:35,765 人⇒平成 72(2060)年の総人口:24,628 人

##### 【日本創成会議の推計】

- ・平成 52(2040)年の総人口:32,768 人

#### (3)人口の変化が地域の将来に与える影響の分析

- ・生産年齢人口の減少により市税が減少する。
- ・老年人口の増加に伴い社会保障費などの扶助費が増大する。
- ・市税の減少により公共施設等の維持管理が困難になる。

### 2 人口の将来展望

#### (1)目指すべき将来の方向

- ・若い世代が希望に応じた就労、結婚、出産、子育てを実現することで、安定した人口構造を保持し、将来に亘って市民が安心して働き、暮らしていくことのできる地域社会を構築する。

##### 【基本目標】

- ①人を呼び込み・人に選ばれる魅力ある地域づくりを推進する。
- ②若い世代の希望をかなえる環境づくりを推進する。
- ③確かな暮らしのための経済力を確保する。
- ④地域社会の持続的発展のための活力を維持する。

#### (2)人口の将来展望

- ・平成 72(2060)年を対象期間とし、総人口 40,000 人の維持と人口構造の若返りを図る。

## 富士吉田市地域創生総合戦略(基本目標及び対策)

本市の人口ビジョンに描く将来展望を実現するため、今後5年間の基本目標や基本的な方針、具体的な政策などを提示し、人口減少の克服と地方創生に取り組む。

### 1 基本的な考え方

- ・本市の若年世代の多くが、進学や就職時に東京圏に転出し、その結果、若年女性人口が減少しており、この減少と低い出生率により子どもの数が減少し、更なる人口減少につながる「負の連鎖」が生じている。
- ・人口減少に歯止めをかけ、将来的に人口構造の若返りを図る「積極戦略」と、人口減少社会に的確に対応し、効率的かつ効果的な社会システムを再構築するための「調整戦略」の二つを同時並行的に推進していくことが必要である。

### 2 重点項目

「若い世代を中心に、安心して働けるための産業振興と雇用の場の創出」  
「若い世代が希望に応じて、結婚、出産、子育て、働き方が出来る環境づくり」  
「若い世代を中心とした各地域における移住・定住の促進」

### 3 基本目標・基本的方向及び政策

#### ◎人口減少に歯止めをかけるための「積極戦略」

##### 魅力

#### 1【人を呼び込み・人に選ばれる魅力ある地域づくりの推進】

地域の活力を生み出す基幹・基盤産業の振興や観光・地域資源の活用強化による新たな地域産業の創出など、地域の特性を生かした産業政策を推進することにより若い世代の市外への流出を防ぎ、また、移住希望者への支援体制の確立や本市の魅力を積極的に発信することにより、市内に人を呼び込み、社会増への転換を図る。

##### 【政策】

- 地域を担う基幹・基盤産業の振興
- 観光・地域資源の活用強化と新たな産業の創出
- 雇用対策と産業基盤の整備
- 移住・定住の促進
- 総合的な情報発信力の強化

##### 希望

#### 2【若い世代の希望をかなえる環境づくりの推進】

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえることにより、出生数を増やし、人口減少の要因である自然減を抑制するため、男女の出会いの場の創出や結婚サポート体制を構築し、豊かな自然のなかで子育て世代が安心して子どもを産み育てることができる環境を整備し、結婚・出産・子育てまで切れ目ない支援を進める。

##### 【政策】

- 結婚の希望をかなえる出会いの場の創出
- 安心して妊娠・出産・子育てができる環境の整備
- 魅力ある教育環境の整備

#### ◎人口減少社会に対応するための「調整戦略」

##### 経済力

#### 3【確かな暮らしづくりのための経済力の確保】

地域産業の生産性の向上や高付加価値化を促進するとともに、生産年齢人口の減少に伴う労働力不足を補う人材の育成・確保を進め、地域の経済水準の確保に努める。

##### 【政策】

- 地域産業の生産性向上と産業製品の高付加価値化の促進
- 高度専門人材の労働参加

##### 活力

#### 4【地域社会の持続的な発展のための活力の維持】

地域の資源や人材を活かし、効率的・効果的な地域社会を構築し、持続可能な地域づくりを進めるため、官民協働によるまちづくりを推進するとともに、行政運営の効率化や公共施設・サービスの最適化を図る。

##### 【政策】

- 地域社会の活性化と地域の特色や資源を生かした地域づくり
- 安心・安全な地域づくり
- 広域連携の推進と行政運営の効率化・最適化

# 富士吉田市地域創生総合戦略(基本目標と政策の体系)

## ●基本目標と基本的方向

※基本目標に実現すべき成果(アウトカム)に係る数値目標を設定  
(⇒住民にもたらせられた便益に係る数値目標)

### ◎人口減少に歯止めをかけるための「積極戦略」

#### 【基本目標1】

≪人を呼び込み・人に選ばれる

魅力ある地域づくりの推進>

地域の活力を生み出す基幹・基盤産業の振興や観光・地域資源の活用強化による新たな地域産業の創出など、地域の特性を生かした産業政策を推進することにより若い世代の市外への流出を防ぎ、また、移住希望者への支援体制の確立や本市の魅力を積極的に発信することにより、市内に人を呼び込み、社会増への転換を図る。

■数値目標: 社会増減 -376人(H25) ⇒ 0人(H31)

⇒<国の基本目標①> 地方における安定した雇用を創出する。  
⇒<国の基本目標②> 地方への新しいひとの流れをつくる。

#### 【基本目標2】

≪若い世代の希望をかなえる環境づくりの推進>

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえることにより、出生数を増やし、人口減少の要因である自然減を抑制するため、男女の出会いの場の創出や結婚サポート体制を構築し、豊かな自然のなかで子育て世代が安心して子どもを産み育てることができる環境を整備し、結婚・出産・子育てまで切れ目ない支援を進める。

■数値目標: 合計特殊出生 1.43(H25) ⇒ 1.60人(H31)

⇒<国の基本目標③> 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。

## ●政策と具体的な施策

※具体的な施策ごとに客観的な重要業績評価指標(KPI)を設定 (⇒KPIは実現すべき成果に係る指標であり、施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標)

◎政策	◎具体的な施策	◎施策ごとの重要業績評価指標(KPI) ※現況(H26)⇒H31
(1)地域を担う基幹・基盤産業の振興	①ものづくり産業を核としたグローバルデザイナー拠点事業による地域ブランドづくりの推進	・繊維織物に関わる工業製品出荷額等 68億円(H25)⇒10%増加
(2)観光・地域資源の活用強化と新たな産業の創出	①北口本宮富士浅間神社周辺エリアの整備計画 ②(仮称)富士の社・巡礼の郷公園の整備計画 ③新たな観光資源を活用した観光施策の推進 ④地域資源を活用した特産品の開発と地域ブランド商品の強化 ⑤新たな産業創出の支援	・北口本宮富士浅間神社周辺エリア整備 基本計画の策定 平成31年度 ・(仮称)富士の社・巡礼の郷公園の整備 基本構想の策定 平成29年度 ・(仮称)富士の社・巡礼の郷公園の整備 実施計画の策定 平成31年度 ・(仮称)富士の社・巡礼の郷公園の整備 工事施工 平成28年度 ・観光基本計画の策定 平成29年度 ・富士山の眺望を活用した観光施策基本構想の策定 平成27年度 ・新商品の開発 5件/年 ・ミルキーQueenの作付面積割合 7.3% ⇒ 10% ・観光入込客 479万人⇒30%増加 ・観光消費額 411億円⇒30%増加
(3)雇用対策と産業基盤の整備	①企業誘致の推進 ②産業人材の育成・確保と雇用の促進 ③LLP(有限責任事業組合)設立を通じた市街地活性化プロジェクトの推進 ④創業・起業の支援 ⑤産業集積エリアの整備 ⑥国機関の移転等への取組み	・企業誘致数 1社⇒10社 ・就職セミナー参加者 80人⇒400人 ・人材確保等雇用促進支援制度の活用による雇用量 100人 ・人材確保等雇用促進支援制度の活用による継続雇用量 70% ・新世界通り再生による新規起業数 10人 ・ビジネススクールや創業セミナー連携団体数 4団体⇒5団体 ・創業希望者及び事業者対応件数 15件 ・剣丸尾西土地地区画整理組合の設立 平成27年度 ・産業集積エリア周辺のインフラ整備 平成31年度
(4)移住・定住の促進	①相談体制の整備と情報発信の強化 ②移住・定住者の支援 ③空き家の利活用の推進 ④定住促進を目的とした優良宅地の開発と販売 ⑤ものづくり産業を核としたグローバルデザイナー拠点事業による地域ブランドづくりの推進【再掲】 ⑥LLP(有限責任事業組合)設立を通じた市街地活性化プロジェクトの推進【再掲】	・定住促進センター及びポータルサイトの開設 平成27年度 ・ポータルサイトの年間ページビュー 1万件/年 ・移住について具体的な相談者数 10人/年 ・定住促進奨励金制度の活用 社会減を年150人抑制 ・空き家・空き店舗バンクへの登録件数 20件/年 ・空き家利用数 10件/年 ・優良宅地販売数 10件 ・デザイナー等を指す若者の移住 5人 ・新世界通りの空き店舗の活用数 10店舗
(5)総合的な情報発信力の強化	①地域ポータルサイトによる魅力発信の強化	・富士山モールの参加事業者 654件⇒800件 ・富士山モールの年間ページビュー 18万件/年⇒20万件/年
(1)結婚の希望をかなえる出会いの場の創出	①縁結び奨励制度による結婚サポート体制の整備 ②出会いの場の提供	・縁結び御世話人登録 30人/年 ・縁結び奨励金制度活用による成婚数 10組 ・事業所間交流会 2回/年 ・市主催の婚活イベントの開催数 2回/年 ・LINE@(富士吉田 DE 会おう)登録者 500人 ・交流会参加者 100人/年
(2)安心して妊娠・出産・子育てができる環境の整備	①妊娠・出産・子育てまでを切れ目なくサポートする体制の整備 ②子育て支援ネットワークの拡充 ③仕事・子育ての両立できる環境整備 ④きめ細かな保育の促進 ⑤子育て家庭等への経済的支援 ⑥放課後児童施設の整備・充実 ⑦女性の社会進出の推進と社会の現状への理解 ⑧祖父母が協力できる環境の支援	・(仮称)子育て支援センターの開設 平成28年度 ・(仮称)子育て支援センターの利用者数 165人/年 ・ファミリーサポートセンターの利用者数 2,554人/年⇒3,868人/年 ・子育てサークル 10団体⇒12団体 ・認定子ども園への移行 2箇所 ・地域型保育事業整備補助金制度の創設 平成27年度 ・地域型保育施設の新設 2箇所 ・延長保育児童数 495人/年⇒500人/年 ・一時預かり園児数 7,025人/年⇒11,000人/年 ・病後児保育園児数 745人/年 ・不妊治療費の助成上限額 10万円⇒20万円 ・子育て応援医療費助成の年齢 中学校3年生まで【継続実施】 ・児童保育クラブの対象学年 小学校6年生まで【継続実施】 ・児童保育クラブの確保 12箇所⇒13箇所
(3)魅力ある教育環境の整備	①国際理解教育の推進 ②放課後子ども教室の整備・充実 ③郷土愛教育の推進 ④特色ある教育環境の整備	・外国語指導講師の配置 7人兼務配置⇒全小中学校に1人配置 ・放課後子ども教室数 2箇所⇒7箇所 ・郷土愛に関する学習発表会 1回/年 ・市民大学、家庭教育学級、昇教室の開催 各12回/年⇒各14回/年

# 富士吉田市地域創生総合戦略(基本目標と政策の体系)

## ●基本目標と基本的方向

※基本目標に実現すべき成果(アウトカム)に係る数値目標を設定  
(⇒住民にもたらせられた便益に係る数値目標)

### ◎人口減少社会に対応するための「調整戦略」

#### 【基本目標3】

##### ≪確かな暮らしづくりのための経済力の確保≫

地域産業の生産性の向上や高付加価値化を促進するとともに、生産年齢人口の減少に伴う労働力不足を補う人材の育成・確保を進め、地域の経済水準の確保に努める。

■数値目標: 1人当たりの市民所得  
287万円(H26) ⇒ 300万円(H31)

⇒<国の基本目標④>時代にあった地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する。

#### 【基本目標4】

##### ≪地域社会の持続的な発展のための活力の維持≫

地域の資源や人材を活かし、効率的・効果的な地域社会を構築し、持続可能な地域づくりを進めるため、官民協働によるまちづくりを推進するとともに、行政運営の効率化や公共施設・サービスの最適化を図る。

■数値目標: 富士吉田市に住み続けたいと思う人の割合  
⇒ 80%以上(H31)

⇒<国の基本目標④>時代にあった地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する。

## ●政策と具体的な施策

※具体的な施策ごとに客観的な重要業績評価指標(KPI)を設定 (⇒KPIは実現すべき成果に係る指標であり、施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標)

◎政策	◎具体的な施策	◎施策ごとの重要業績評価指標(KPI) ※現況(H26)⇒H31
(1)地域産業の生産性向上と産業製品の高付加価値化の促進	①中小企業への支援対策の充実 ②地場産業の振興 ③産業人材の育成・確保と雇用の促進【再掲】 ④ものづくり産業を核としたグローバルデザイナー拠点事業による地域ブランドづくりの推進【再掲】	・事業所数 3,440⇒現状維持 ・織物業雇用支援事業補助金制度の創設 平成27年度 ・織物業後継者数 5人 ・織物業海外展開支援事業補助金制度の創設 平成27年度 ・海外展開事業助成件数 5件 ・人材確保等雇用促進支援制度の活用による雇用者数 100人 ・人材確保等雇用促進支援制度の活用による継続雇用割合 70% ・繊維織物に関わる工業製品出荷額 10%増加
(2)高度専門人材の労働参加	①高度専門人材(高齢者)の就業支援や技能の活用	・富士五湖広域シルバー人材センター会員数 250人⇒5%増加 ・富士五湖広域シルバー人材センター就業実人員 208人⇒5%増加
(1)地域社会の活性化と地域の特色や資源を生かした地域づくり	①地域公共交通の利用促進 ②広域交通ネットワークの形成 ③地域の魅力を活用したまちづくりの推進 ④大学等との連携によるまちづくり事業の推進 ⑤LLP(有限責任事業組合)設立を通じた市街地活性化プロジェクトの推進【再掲】 ⑥市民財団と地域おこし協力隊の活用促進 ⑦高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進 ⑧スポーツの力を活用した地域づくりの推進	・地域バス「タウンズニーカー」の利用者数 8万3千人/年(H26)⇒9万人/年 ・(仮称)富士吉田北スマートICの整備 平成28年度供用開始 ・(仮称)富士吉田南スマートICの整備 平成32年度供用開始 ・御師まちエリアのデザインコートの策定 平成27年度 ・御師まちエリアのデザインコートによる修景件数 3件/年 ・大学との包括連携協定の締結 1件⇒2件 ・LLP(有限責任事業組合)の設立 平成27年度 ・多世代交流施設「富楽時」の利用者数 7万5千人/年 ・高齢者による介護支援ボランティア登録者数 119人/年⇒220人/年 ・高齢者による介護支援ボランティア参加者数 1,273人/年⇒4,200人/年
(2)安心・安全な地域づくり	①富士山火山災害に係る対策の構築 ②食糧供給拠点施設の整備 ③通信事業者等と連携した地域情報発信の強化	・避難計画の策定 平成27年度 ・地域防災計画(富士山火山編)の見直し 平成28年度 ・食糧供給拠点機能を備えた学校給食センターの整備 平成28年度 ・データ放送の充実とコミュニティFM局の開局 平成27年度 ・データ放送とコミュニティFMの認知度 50%
(3)広域連携の推進と行政運営の効率化・最適化	①広域連携の推進 ②既存ストックのマネジメント強化	・公共施設等総合管理計画の策定 平成28年度